

まほろば 秦野 通信

平成28年1月21日

秦野市役所市長公室広報課

タイトル	<p align="center">浮世絵で知る江戸時代の音楽事情 市所蔵浮世絵展 「江戸のにぎわい ～舞と調べ～」</p>
When (いつ)	<p>1月3日(火曜日)～15日(日曜日) 午前10時～午後5時 *1月4・10日は、美術館休館日 1月15日は午後3時まで</p>
Where (どこで)	<p>市立宮永岳彦記念美術館 (鶴巻北3-1-2) 電話0463(78)9100</p>
Who (だれが)	市教育委員会
What (なにを)	<p>秦野市では、平成10年に東田原出身の浮世絵収集家・故大津圓子氏から寄贈を受けた約1,900点の浮世絵を所蔵しており、これまで宮永岳彦記念美術館や文化会館で定期的に浮世絵展を開催しています。</p>
How (どのように)	<p>第17回目となる今回は、江戸の庶民に親しまれた舞踊や音楽などを描いた作品約35点を紹介します。</p>
Why (なぜ)	<p>【開催趣旨】 元旦をひっそりと過ごした江戸の町は、一月二日、一転して賑やかになります。獅子舞い、猿回し、太神楽など、門付けの芸人が笛、鼓、太鼓、囃子の音を市中に響かせ、唄を歌い口上を述べ、舞いを舞って一年の豊年と繁栄を祝い、芸人も町人も“めでたいめでたい”といて過ごします。 正月にはじまり、余寒と不景気をふきとばす春祭り、桜の下で思い思いに春の一日を楽しむお花見、夏の盛りの到来を花火の大音量とともに告げる両国の川開き、鎮魂の祭事であり庶民の愉楽でもある盆踊り、船を浮かべ清光をめぐる仲秋の名月、11月1日の芝居正月、一年をしめくくる大晦日、と、季節の移り変わりとともに、年中行事などが続きます。 これらの特別な日には、笛、鼓、太鼓、三味線、尺八などが江戸中に鳴り響き、町に華を添え、庶民の生活に活力と癒しを与えました。 本展では、正月、演芸、舞台といった優雅で華やかなハレの日や、人々が音楽に身も心もゆだねながら踊り、演奏している庶民の日常まで、様々な場面の中で親しまれた“舞踊と音楽”を描いた浮世絵作品をご紹介します。 常設展示室で開催中の「宮永岳彦 彩と響」とともに、ご鑑賞いただければ幸いです。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>『市川團十郎演義百番 舎人梅王丸』 豊原国周</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>『江戸八景 唐崎夜雨』 歌川広重</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>『七福神の獅子舞』 葛飾北斎</p>  <p>『扇面役者勢揃』 歌川国貞 (三代豊国)</p> </div> </div>
過去の実績	今回で17回目
問い合わせ	<p>教育部生涯学習課生涯学習担当 担当：林 電話0463(84)2792</p>